

イチゴの病害虫の発生状況（12月上旬）

1 うどんこ病

発生ほ場割合は平年並でした（図1）。厳寒期は施設を閉めきることが多く、湿度が上昇するため、発生しやすくなります。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を徹底してください。

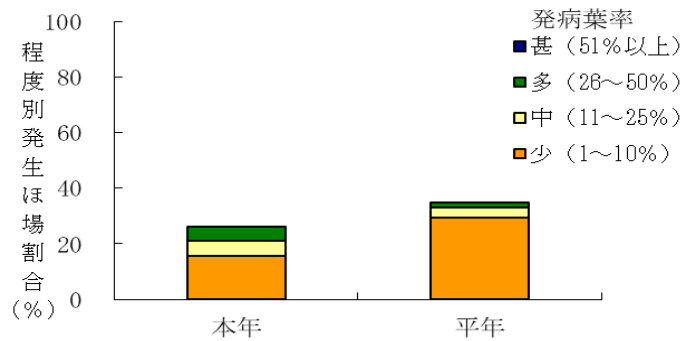


図1 うどんこ病の発生状況

2 土壌病害（炭そ病・萎黄病）

発生ほ場割合は平年並でした（図2）。巡回調査では炭そ病、萎黄病が確認されており、育苗時に発生し、本ぼに持ち込まれたと考えられます。発病株及び発病が疑われる株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分してください。

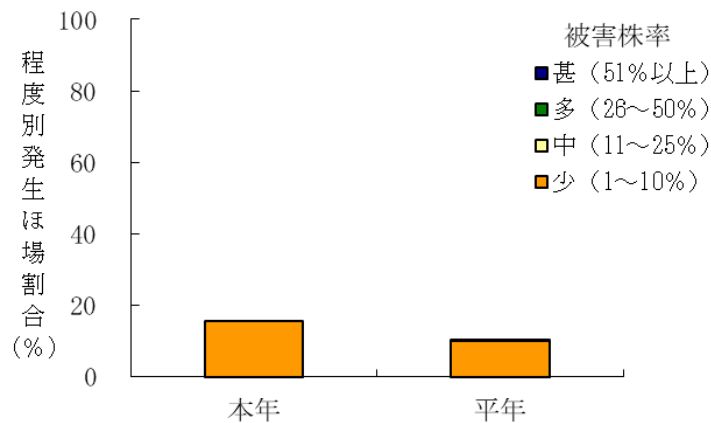


図2 土壌病害の発生状況

3 アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図3）。低密度時から薬剤防除を実施してください。

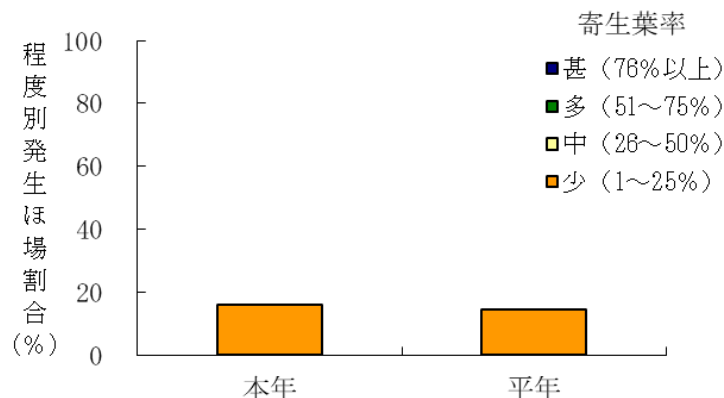


図3 アブラムシ類の発生状況

4 ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図4）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください。抵抗性の発達が懸念されるので、薬剤の選択には注意してください。また、ハダニ類の防除にチリカブリダニやミヤコカブリダニを放飼している場合には、天敵資材に影響の小さい薬剤を選択してください。

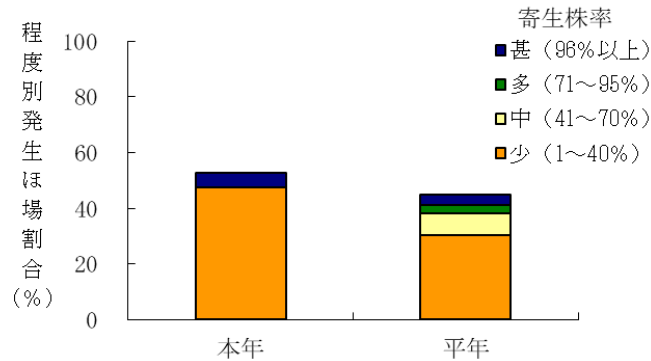


図4 ハダニ類の発生状況

5 コナジラミ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。寄生密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。

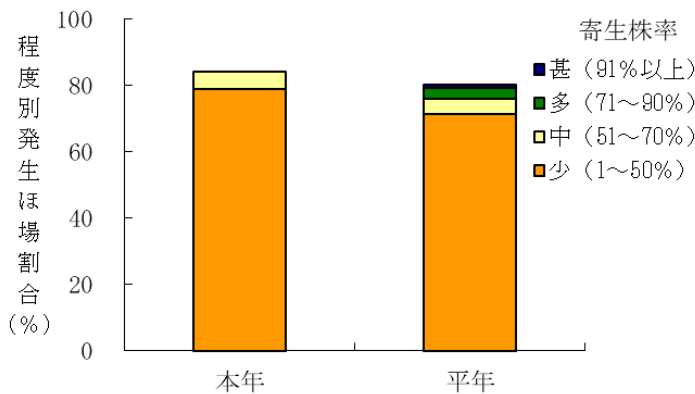


図5 コナジラミ類の発生状況

6 アザミウマ類

発生ほ場割合は平年より高い状況でした（図6）。寄生密度が高くなると被害果が発生します。開花中の花をよく観察して、寄生が確認される場合は低密度時から防除を実施してください。

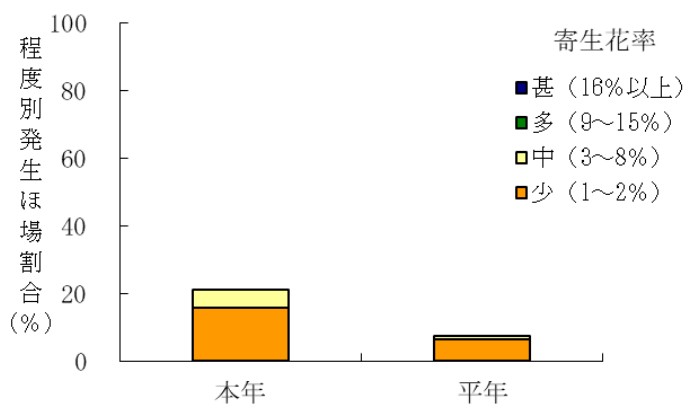


図6 アザミウマ類の発生状況

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。